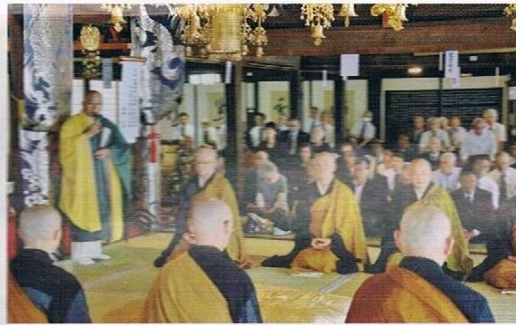


宗寺 洞叟 曹仁

先々代の50回忌と大遠忌を 戦後の苦難を乗り越えた姿を偲び

群馬県高崎市の曹洞宗 持寺二祖峨山韶碩禪師 仁叟寺は15日、29世再 六百五十回大遠忌」を営 中興・雲巖石橋大和尚 五十回忌併修大本山總 先々代住職の雲巖石橋 大和尚(渡辺石 橋師)は宗務所 長、宗議会議員、 吉井町佛教会初 代会長を歴任。 群馬県保護司会 副会長を務め、 司法大臣表彰、 法務総裁表彰を 受けている。戦 時中には東京都 北区から1000 名の疎開学童を 受け入れ、父親 代わりとして暮



能アフリー化が徹底し、お 本大震災直後に日蓮宗総 年寄りも気軽に参拜でき 務局長として被災地を訪 る設備が整っているが、れ、避難先の寺院で見た 妙成寺は石段も急で、五子供たちの姿が忘れられ 重塔にもスムーズに参拝 ない。目の前で親が津波

昭和41年に世寿83歳で 逝去し、本葬は本寺であ

る雙林寺の石附賢道住職 が秉炬師を勤めた。五十 回忌は石附賢道住職の弟 子である石附周行總持寺 副貫首によって勤められ た。

渡辺啓司住職(群馬県 宗務所長)は「私が中学 3年生の時に亡くなった が、檀家のお医者さんが 来て、「ご臨終です」と 言って亡骸の前に頭をこ すりつけ、「方丈さん、 ありがとうございますいまし た」と言っていた姿が忘 れられない。在山年数43 年は歴代で一番長いが、 戦後の農地解放で6町6 反が全解放され、丸裸に されてもそれを乗り越え、 頑張りぬいた爺さん



だった。地域の人みんな に好かれた思いの一端で も継げれば、今日の法要 の意味があったと願って いる」と多くの檀信徒の 参列に感謝した。(写真)

法要には93歳の渡辺隆 司東堂と92歳のテル夫人 も元気に参列。(写真) 隆司東堂は「ご縁に繋 がつた方々に随喜いただ き、盛大な五十回忌が厳 修でき、誠にありがたい」と喜び、かつて群馬に宗 務所が11もあった時代の 昔話も披露した。

また、渡辺住職を導師 に営んだ峨山韶碩禪師 六百五十回大遠忌では、 大悲心陀羅尼の真誦が営 まれ、縁に連なる地域寺 院による温かな法要と なった。

石附副貫首は

「石橋老師、東堂 現住職と3代に渡り 宗務所長を務め られたことは大変 な業績。峨山禪師 が晩年、「幻人心 識処々最親」とい う言葉を残してい る。よくよく、 心も認識も自然の 流れの中にたえず んでいる」と申さ

曹洞宗仁叟寺

先々代の50回忌と大遠忌を

戦後の苦難を乗り越えた姿を偲び

群馬県高崎市の曹洞宗仁叟寺は15日、「29世再中興・雲巖石橋大和尚五十回忌併修大本山總持寺二祖峨山韶碩六百五十回大遠忌」を営んだ。

先々代住職の雲巖石橋大和尚（渡辺石橋師）は宗務所長、宗議会議員、吉井町仏教会初代会長を歴任。群馬県保護司会副会長を務め、司法大臣表彰、法務総裁表彰を受けている。戦時中には東京都北区から100名の疎開学童を受け入れ、父親代わりとして慕われた。

昭和41年に世寿83歳で逝去し、本葬は本寺である雙林寺の石附賢道住職が乗炬師を勤めた。五十回忌は石附賢道住職の弟子である石附周行總持寺副貫主によって勤められた。

渡辺啓司住職（群馬県宗務所長）は「私が中学3年生の時に亡くなったが、檀家のお医者さんが来て“ご臨終です”と言って亡骸の前に頭をこすりつけ、“方丈さんありがとうございました”と言っていた姿が忘れられない。在山年数43年は歴代で一番長いが、戦後の農地解放で6町6反が全開放され、丸裸にされてもそれを乗り越え、頑張りぬいた爺さんだった。地域の人みんなに好かれた思いの一端でも継げれば、今日の法要の意味があったと願っている」と多くの檀信徒の参列に感謝した。

法要には93歳の渡辺隆司東堂と92歳のテル夫人も元気に参列。隆司東堂は「ご縁に繋がった方々に随喜いただき、盛大な五十回忌が厳修でき、誠にありがたい」と喜び、かつて群馬に宗務所が11もあった時代の昔話も披露した。

石附副貫主は「石橋老師、東堂、現住職と3代に渡り宗務所長を務められたことは大変な業績。峨山禅師が晩年、“幻人心識処々最親”という言葉を残している。“よくよく心も認識も自然の流れの中にたたずんでいる”と申された。仁叟寺様も代々500年間続いているということは、自然の中に調和する姿かなと思う心境を峨山禅師の残した言葉を通して思う」と勝縁の導師を勤めることが出来たことを喜んだ。

また、渡辺住職を導師に営んだ峨山韶碩禅師六百五十回大遠忌では、大非心陀羅尼の真読が営まれ、縁に連なる地域寺院による温かな法要となった。